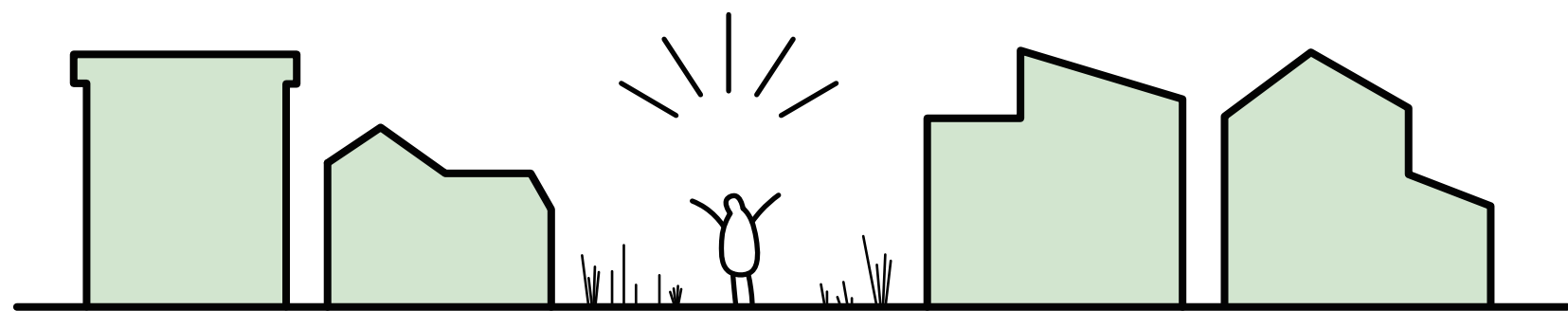


「家の近くで自然体験」

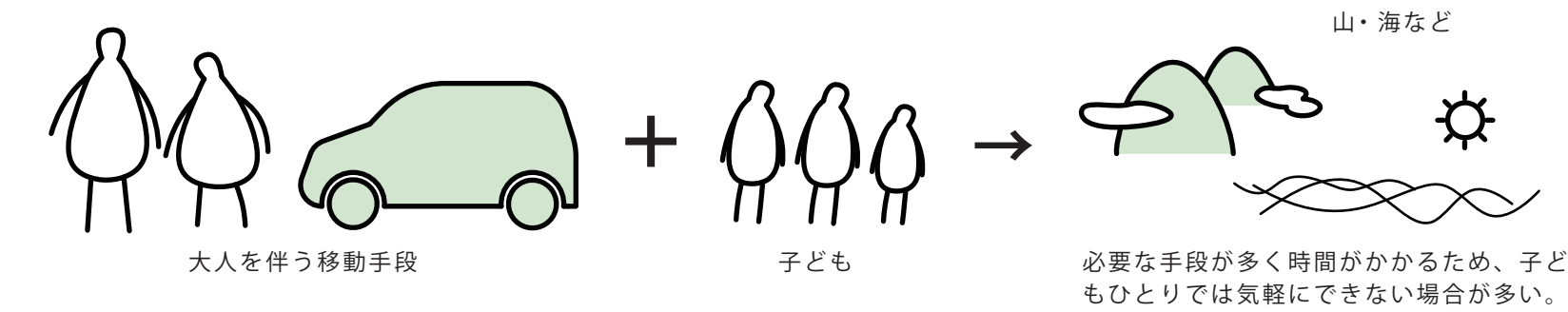


●子どもが自身の力のみで行う

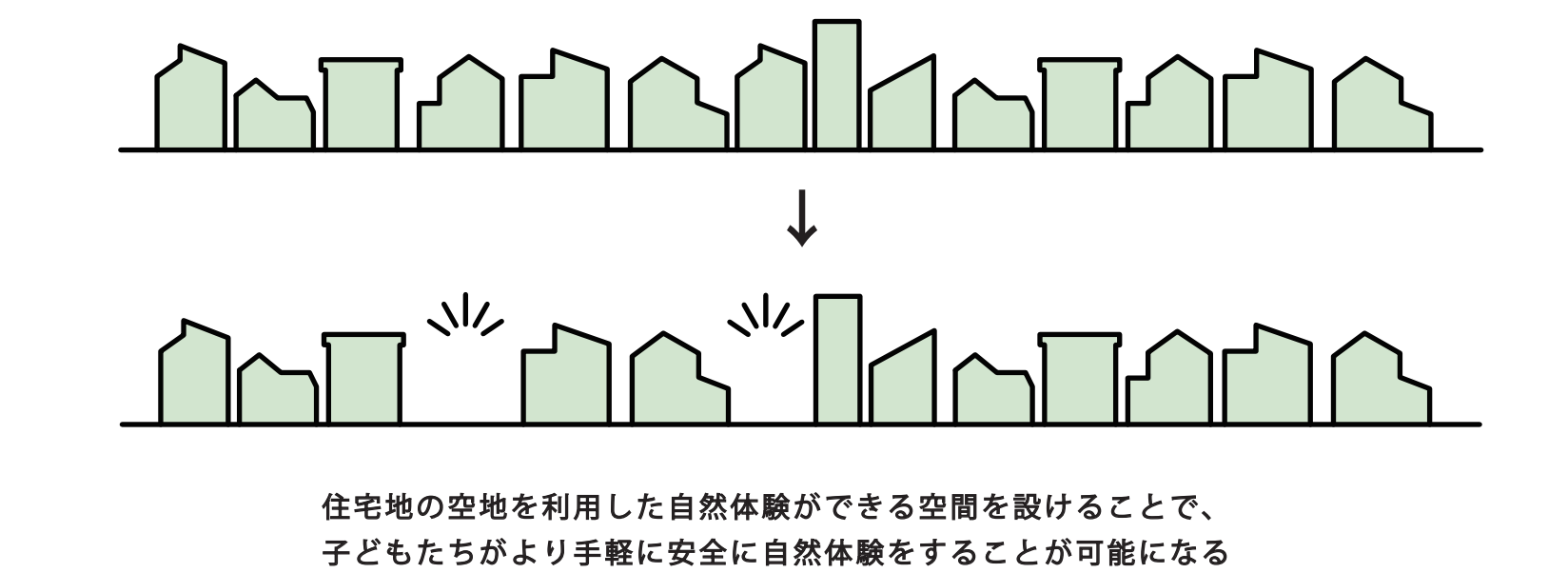
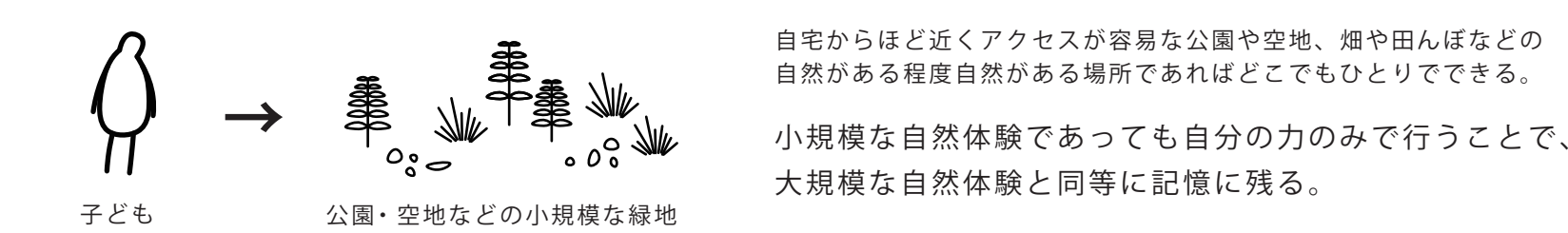
幼少期に行う自然体験は、大人になってからの環境保護意識の形成にあたり重要な役割を担っている。そのため、幼少期の自然体験は必要であるといえる。

自身の幼少期の経験に基づき、自宅から遠方で行った山や海などの大規模な自然の中での自然体験と同等に、自宅近くの緑地や公園でできる程度の自然体験が記憶に残っている。大規模な自然の中で行う水遊びや山登りなどの体験は、周辺に海や川、山のない住宅地に住む子どもにとっては頻繁にできない体験であるにも関わらず、自宅近くの自然体験であっても記憶に残りやすい。それは、子どもが他人の手を借りたか、自身の力のみで行ったものであるかという、比較的時間を要して行う自然体験と手軽に行える自然体験の違いにあると考えた。

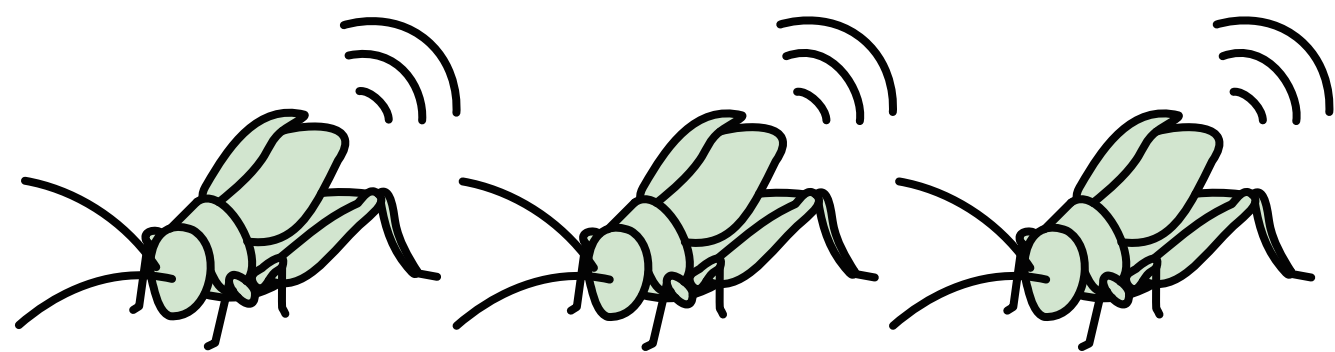
■大規模な自然体験までの一般的な過程



■小規模な自然体験までの一般的な過程



「虫の音を聴く」



●自然体験の第一歩として「虫の音」

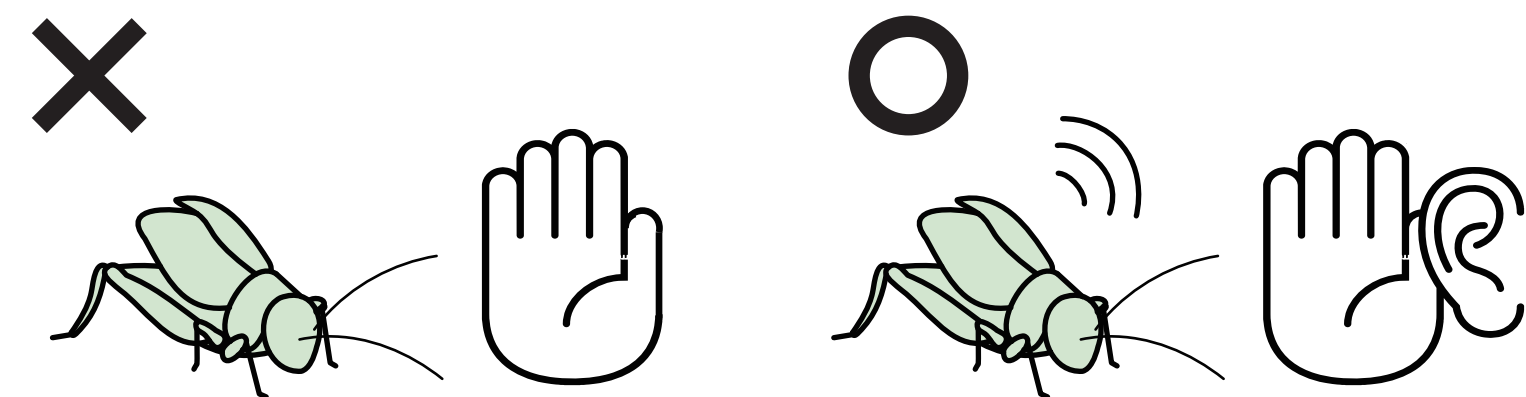
周辺に海や川、山などの自然がない住宅地で行う自然体験は内容が限られてしまい、大規模な自然に比べ敷地も狭く、生物の種類も少ない。そのため、本研究では比較的あらゆる場所で存在を感じることができる鳴く虫の音を利用する。虫の音を中心とした自然体験は、容易で簡潔に実現できることが望める。



対象敷地近くの緑地。はっきりと虫の音を聴くことができる。

●虫嫌い対策

アンケート調査や文献などから、虫嫌いをしている人が多数確認できた。また、これまでの私の経験において虫を好んでいる人はほとんどおらず、虫を嫌う傾向にある人が多いと感じた。これらの事実を踏まえ、昆虫や植物の観察などの虫との接触が発生しかねない自然体験の空間をつくることは困難であると考えた。そこで、虫の音を聴くという自然体験に焦点をあてた。



●古来からの風物詩である虫の音を楽しむ

日本において虫の音を楽しむ文化は江戸時代から記録が残っている。日本人の生活は古来自然とともにあり、秋になると鳴く虫の声に耳を傾け、美声の鳴く虫は声だけでその名前を知っていたほどであった。実はこうした習俗は世界的には大変珍しく、ほとんど日本と中国だけに存在する文化といえる。

現在は、虫聴きの文化はかつてほど繁栄はしていないものの、鳴く虫の音に風情を感じている人は多い。本研究を通して、人々が鳴く虫の音を聞くことで自然体験を行い、環境保護意識の形成につなげていきたい。



立石寺

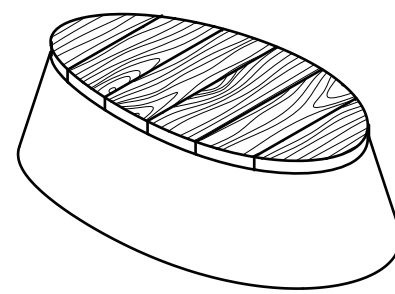
松尾芭蕉

「自然体験を行うための空間」

●住宅地で虫の音をはじめとした自然体験を行う空間をつくる

住宅地周辺の空地を利用して空間をつくるにあたり、限られた空間と条件の多い環境において人々が快適に自然体験を行うために、空間に配置するふたつのプロダクトを設計した。制作したプロダクトを元に自然体験を促す。

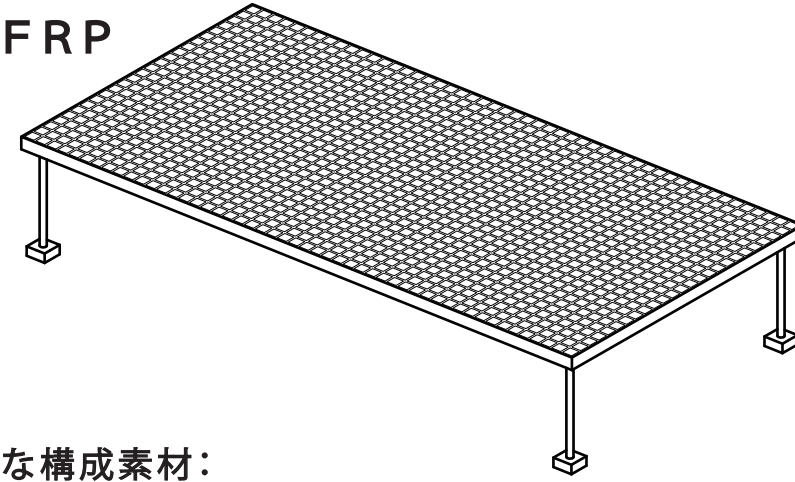
①飛び石



主な構成素材:

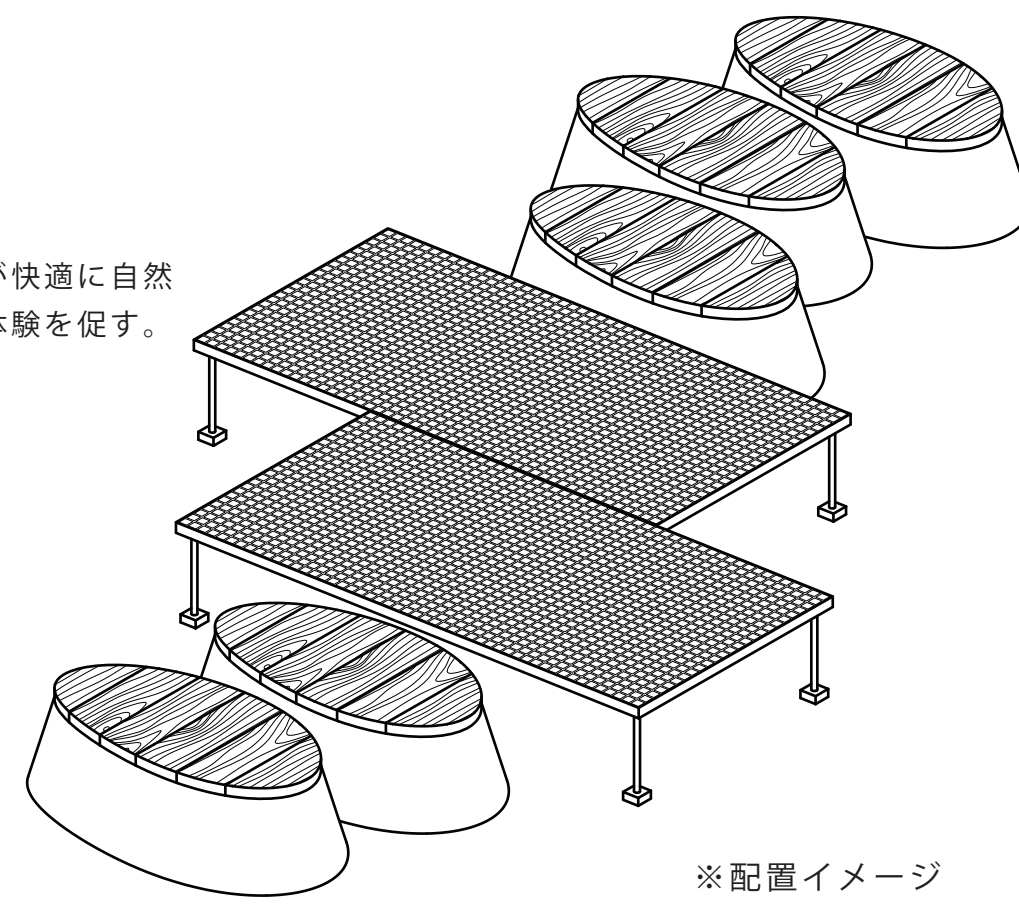
ウリン、高密度ポリエチレン

②FRP

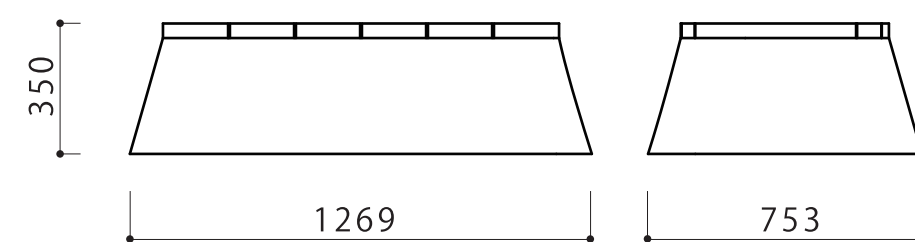


主な構成素材:

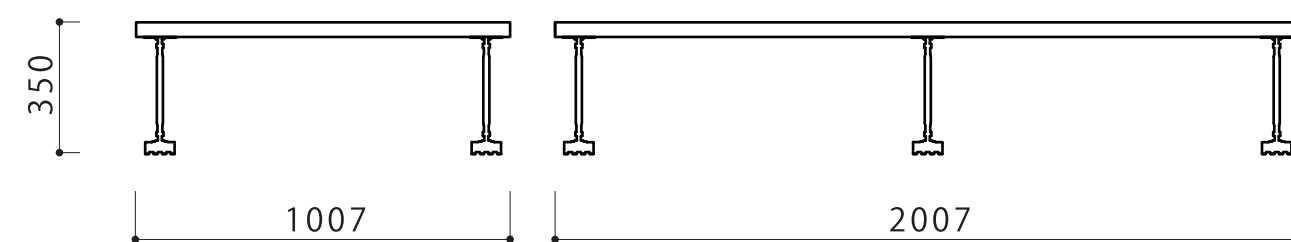
FRPグレーチング、鋼製束



※配置イメージ

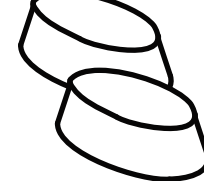


立面図 縮尺 1/20



立面図 縮尺 1/20

①飛び石

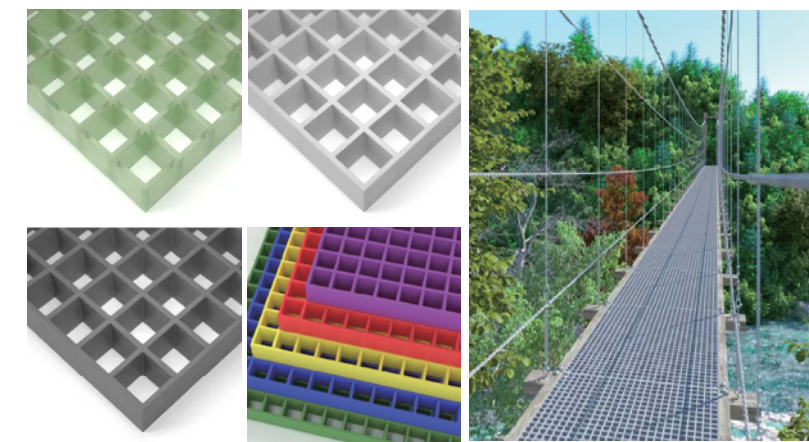


●ウリン



インドネシア、マレーシア原産のクスノキ科の広葉樹。鉄の様に強いことから別名アイアンウッドとも呼ばれ、ボルネオ島では生涯腐らない木といわれています。曲がりや伸縮はほとんどなく、耐水性、耐久性は世界随一の木。

●FRPグレーチング



樹脂とガラス繊維を組み合わせた複合材料 FRP(強化プラスチック)を用いてつくられているグレーチング。金属製にはない軽さ、強さ、耐食性を兼ね備えた多目的格子材。耐薬品性や電気絶縁性に優れ、薬品工場などの特殊環境から一般建築まで場所を選ばず採用されている。

●鋼製束



1階の床組みで大引を受ける床束の一種。鋼製の既製品の床束、乾燥や収縮による床鳴りを防ぐことができ、高さ調整も簡単にできる。

